

# 令和2年度

## 事業報告

聖母愛児園

### 1. 組織の強化

- (1) 全職種の職員が、養育の質の向上に向けて、基本的意識としてミッション（使命）、パッション（情熱）、アクション（行動）を持ち、伝統文化を作り上げていく。

### 2. 財務・運営方針に関する組織の向上

- (1) 財務に関する必要な知識を身につけられるよう研鑽に努める。
- ・措置費の仕組み、予算に関すること、決算に関すること、事務費と事業費に関すること、暫定定員と運営の関係等、職員会議にて全職員に説明を実施。個々の科目の予算額を子どもに反映させることの関連付けをした。理解度と意識強化については個人差の課題が残った。

### 3. 財務の健全運営の保持と、事業活動に有効に生かす透明性の確保

- (1) ホームページ、あすなろ会報にて「事業活動」「財務諸表」等の情報を開示し、財務の透明性が示せるよう、よりよい運営に努める。
- ・財務は定員を確保し、安定した運営ができています。
  - ・ホームページ、会報「あすなろ」にて「事業活動」「財務諸表」等の情報を開示し、財務の透明性の開示に努めた。
- (2) 透明性を保ち、地域社会からの信頼性を得られるよう努める。
- ・情報は開示し、地域社会から信頼は得られている。

### 4. 職員の資質向上と、育成マネジメント

- (1) 「養育支援マニュアル」改訂版を完成する。マニュアルを活用し、基本姿勢の統一と、定着を図り次世代に繋げる。
- ・「養育支援マニュアル」改訂版の作成にあたり、検討会議を重ねたが作成には至らなかった。収集した情報をもとに次年度完成に向けて繰り返しとなった。
- (2) OJTの推進委系を確立し、基幹的職員、エルダー職員を中心に、職員ひとり一人の養育の質の向上をめざす。
- ・エルダー体制の組織図を作成し周知したが、日常的にOJTを十分できなかった課題が残った。
- (3) PDCAサイクルに基づく振り返りを継続し、個々の職員がチームとして機能することをめざす。
- ・PDからCAサイクルには至らず、個々が集団として機能するには課題が残った。
- (4) ひとり一人がケースの見立て力をつける。アセスメントシートの作成。臨床心理士との連携を強化して、支援の質の向上に努める。
- ・アセスメント、ケース検討会議、個別指導を含め、日々の実践に生かせるよう努めたが、被虐待児、発達障害児の対応に、対話力と内面理解する力の不足が課題として残った。臨床心理士との連携はよくなった。

(5)「子どもの命を守る事」を第一優先とし、事故報告、ヒヤリハット、不適切な事例を検討し、組織として再発防止に向けて取り組む。

- ・毎月職員会議にて、ヒヤリハット、不適切な関わり、性的事案等を提出し、全職員で検討し、再発防止に努めた。

## 5. 子どもの権利擁護

(1) 愛児園版の冊子の作成（年齢や理解度に合わせたもの）

- ・権利擁護委員会により冊子が完成した。

(2) 権利ノートを活用し、自分と他者の権利について、子どもを交えて学習会を実施する。

- ・権利ノートの活用に至らず、自分と他者の権利についての学習会は、どのように進めるかの検討の余地あり。次年度に繰り越す。

(3)「人権擁護チェックリスト」を活用し、権利侵害の防止の徹底を図る。

- ・個人版はパートを含め全職員が2回実施し、その後ひとり一人園長面談を実施。
- ・施設版はパートを除き、全職員が実施。丸印が付かなかった項目については検証し、改善に努めた。

## 6. 関係機関との連携・地域貢献

(1) 他機関（幼稚園、学校、児相、医療、要対協、包括支援センター、地域の資源等）と連携し、適格性、確実性、スピードを意識した支援に努める。

- ・個々のケースに応じて、他機関との連携に努めたが、適格、確実、スピード性には欠けるケースもあり、次年度も繰り越し課題とする。

(2) FWSを中心に、支援に必要な状況把握の共有と、関係機関との連携の強化に努める。

- ・各ケースにおける状況の共有については、園と関係機関で共有し支援の連携がとれた。

(3) 地域支援、地域貢献における基本方針及び、地域における公益的取組計画に基づき、実践に繋げる。

- ・地域支援、地域貢献における基本方針の作成は行った。実践については、「カリタス会地域支援センター」を活用し、実践は次年度に繋げたい。

## 7. アフターケアの充実

(1) 卒業児童のフェイスシートの作成

- ・様式の作成に留まり、内容の記録は次年度繰り越しとする。

(2) 退所児童の個々の支援と状況を把握し、毎月の職員会議にて全職員が共有する。

- ・前担当を中心に記録を整備し、毎月の職員会議にて情報を共有した。

(3) 自立支援棟の活用と整備（建物管理と利用児童への支援等）

- ・建物管理はパート職員が毎週実施した。利用児童の支援については、利用児が不規則勤務で連絡がうまく取れず、十分な指導が行き届かない課題が残った。

## 8. 第三者評価外部評価受審

(1) 外部評価受審に向けて取り組む

- ・令和3年度の受審に向けて、共通評価、内容評価項目を全職員で自己評価し、課題の整理を行った。次年度はこの課題のクリアに取り組む。

## 9. 施設整備

### (1) 地域支援センターの建設

- ・整備計画の通り完成した。

### (2) 快適な環境整備と、修繕、維持管理に努める。

- ・入居している子ども達が安心、安全に過ごせるよう、今年度はコロナウイルスの感染予防もあり、補助金を利用し、本園全体を個室化した。
- ・修繕については、その都度、速やかに対応した。